



シルバーカー

KAROYAKA

〔取扱説明書〕〔保管用〕

この取扱説明書は必ずお読みいただき、大切に保管してください。

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

- ⚠ この製品は主として自立歩行できる高齢者が、より安定して歩行できるように補助的に使用するものです。（手すり等の固定したものにつかまらなければ歩行できない人や、介助者に手伝ってもらわなければ歩行できない人には適しません）
使用に適しているかどうか不明な場合、必要に応じて専門家（福祉用具専門相談員、作業療法士、理学療法士等）に相談し、購入されることをお勧めします。
なお、ご使用になる前に、この説明書の内容をよくお読みいただき、十分ご理解された上、ご使用ください。

目 次

警告事項・・・・・・・・・・	1	ブレーキの調整方法・・・・・・・・	5
注意事項・・・・・・・・・・	1～2	キャスターの操作方法・・・・・・・・	6
各部の名称・・・・・・・・・・	3	傘止めバンドの使い方・・・・・・・・	6
車体のひろげ方・折りたたみ方・・	4	故障かなと思ったら・・・・・・・・	6
ハンドルの高さ調節・・・・・・・・	4	保証書・・・・・・・・・・・・・・・・	7
ハンドブレーキの操作方法・・・・	5	S Gマーク・・・・・・・・・・・・・	7
駐車用ストッパの操作方法・・・・	5		

製品に不具合が発生した場合、まずはご購入販売店に連絡してください。

島製作所 お問い合わせ窓口 TEL:050-3385-7668 mail:shima@bi.mbn.or.jp
受付時間：9：00～17：00 土、日、祝日休み

ご使用にあたっては、体調の状態により危険なこともありますので、ご自身で利用できるかご判断ください。

- 加齢等によって歩行機能が低下し、この製品が合わなくなり、危険となる場合があります。
- 短距離でも室内や屋外での移動が困難になった場合には、使用しないでください。
- この製品が適切かどうか、定期的に専門家等に相談し、確認してください。

転倒や故障の防止のために、下記の事項を必ず守ってください。

⚠ 警告事項

転倒など、重大な事故につながる恐れがあります。

- バス・電車、エスカレーターや階段では使用しないでください。
- 雨・雪・凍結など、滑りやすい所では十分注意してください。
- 交通量の多い所、混雑している所、及び、夜間の使用は十分注意してください。
- 段差や溝などにつまずくと、転倒する恐れがありますので、十分注意してください。
また段差を斜めに進入することは止めてください。段差の手前では、必ず一旦止まり、十分注意して、慎重に段差を越えてください。
- 踏切を横断する場合、段差に十分注意してください。特に、警報機の音が鳴ったときに慌てて転倒したり、車輪が溝にはまるなど、大変危険な場合がありますので、同伴者付き添いのもと、横断されることをお勧めします。
- 車体の組み立て、及び調整は確実に行ってください。
- 使用される前に、必ず開閉用レバーを下げきっているか確認してください。
下げきっていない状態だと、使用中に車体が折りたたまれてしまい、大変危険です。
- 車体を片手で押して、使用しないでください。
- ハンドルの高さ調節部(左右)が固定されているか、確認してください。
- ハンドルに寄りかかったり、荷物を吊るすなど、過度の荷重をかけると、車体だけが前に動き、転倒する恐れがあります。
- 踏み台として使用しないでください。
- 乳幼児や子供に操作させないでください。
- 乳幼児や子供の手の届く所に放置しないでください。
- 分解・改造はしないでください。

⚠ 注意事項

思わぬケガをする恐れがあります。

※ 使用前

- ハンドルの高さを変えると、ブレーキの利き具合が変わりますので、ハンドルの高さ調節をされた場合は、P5 **ブレーキの調整方法** を参照して、ブレーキの調整をしてください。
(初期ブレーキ設定は、ハンドルの高さが最下段位置で調整されています)
- 製品各部を点検(特にハンドブレーキや駐車用ストッパの左右両輪の利き具合、車輪及びブレーキタイヤ押さえの摩耗、車体を押したときのグラつきの確認)をして、調整は確実に行ってください。フレームや各部に亀裂・破損・変形などがある場合は使用しないでください。

※ 使用中

- 最大使用者体重は 80kg です。(ご使用される方の体重が 80kg 以下の方に限ります)
- バッグの載荷重は最大 8kg です。
- 重い荷物は、バッグの底部に入れてください。
- バッグ以外の所に荷物を載せないでください。
- ハンドルなどに荷物を吊るしたりしないでください。
- 乳幼児・子供・動物をバッグに乗せないでください。
- 車体の開閉操作時には、乳幼児や子供を近づけないでください。
- バッグに荷物を入れたまま、車体の開閉操作をしないでください。
- ブレーキ操作・駐車用ストッパの操作をする際、指を挟まないように注意してください。
- 駐車用ストッパがかかった状態で、車体を押さないでください。
- 車体を折りたたむときは、指を挟まないように注意してください。
- 車体から離れるときは、必ず駐車用ストッパをかけてください。
- 火気の近くでは使用しないでください。(樹脂が変形し、性能を維持できなくなります)
- 砂利・砂・泥のある所、特に水たまりでの使用、放置はしないでください。
- 用途以外には使用しないでください。

※ 使用後 (保管・お手入れ)

- 火気の近く、高温多湿の場所での保管は避けてください。
- 雨ざらしにしないでください。サビや劣化の原因になります。
- お手入れやメンテナンスの際に、バネの先端や突起物などで、ケガをしないように注意してください。
- 車体が濡れたときは、乾いた布で拭き取ってください。
- シンナー・ベンジンなどの有機溶剤で、車体・バッグを拭かないでください。
- バッグなどの生地汚れは、柔らかい布で拭いてください。
- フレームや車輪の砂や泥などの汚れは放置せずに、必ず拭き取ってください。
- 長期間使用しない場合は、汚れを落として、高温多湿の場所を避け、日陰で保管してください。
また、駐車用ストッパをかけた状態ですと、後輪が凹む恐れがありますので、駐車用ストッパをかけなくても、自立できる場所での保管をお薦めします。
- 寒暖の差が激しい所での保管は、バッグの変色や硬化、車体の劣化、動作不良などの原因となる場合があります。
- 車輪や車体がきしむときは、汚れを拭き取ってから連結部等に潤滑油を数滴差してください。
注油後、車輪の回転及び、車体の開閉操作を 2 ～ 3 回繰り返してください。
- 非常口・消火器・消火栓の前に放置しないでください。
- 定期的に各部 (車輪やブレーキなど) の破損・緩み・摩耗などがいないかを点検し、必要に応じて、調整または交換をしてください。
- 定期的に各部のリベット・ネジなどが緩んでいないかを確認してください。
- 取扱説明書は大切に保管してください。

※ 廃棄について

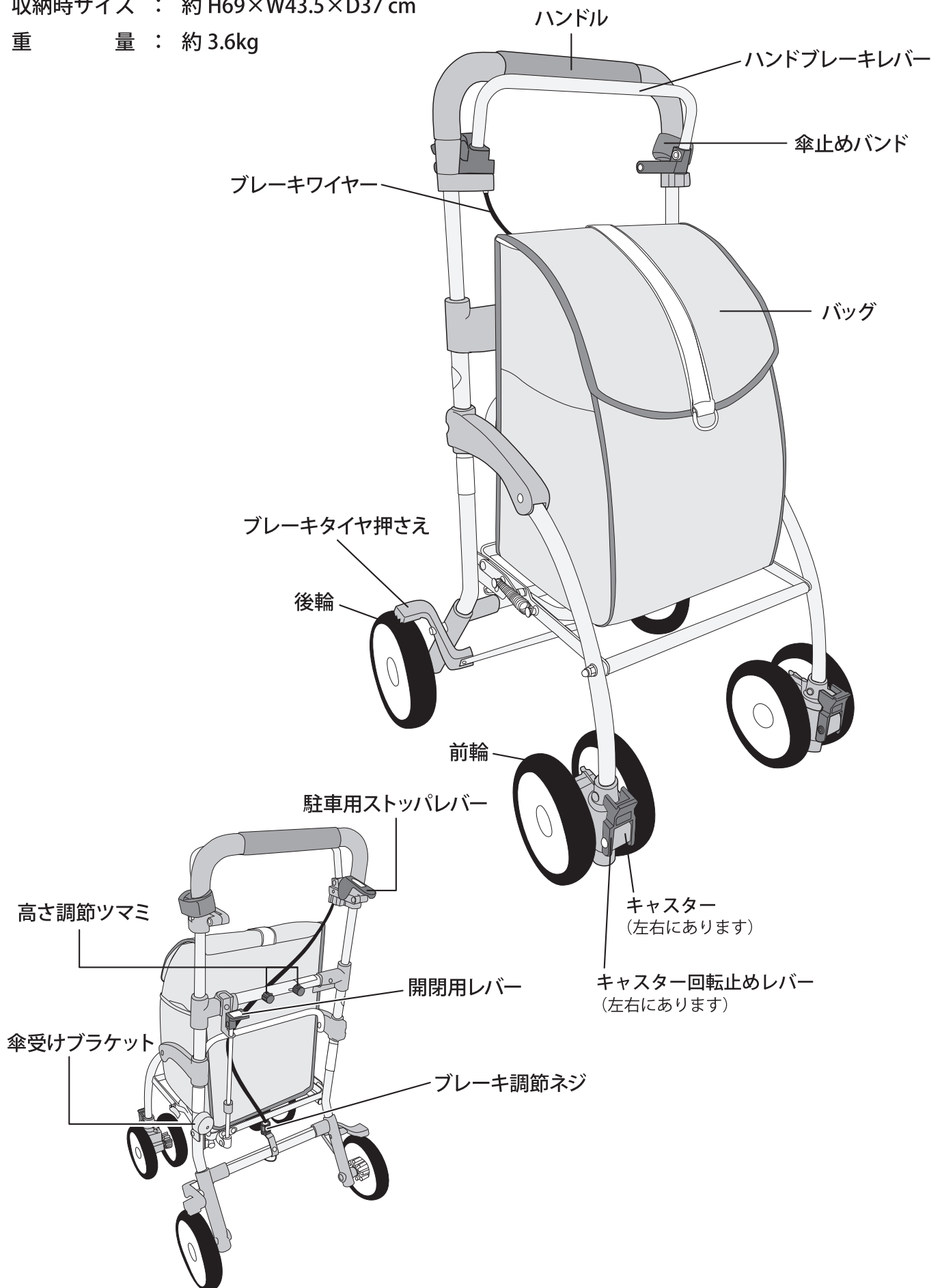
- 各自治体の指示に従って、処分してください。

各部の名称

使用時サイズ : 約 H80 × W43.5 × D48 cm

収納時サイズ : 約 H69 × W43.5 × D37 cm

重 量 : 約 3.6kg

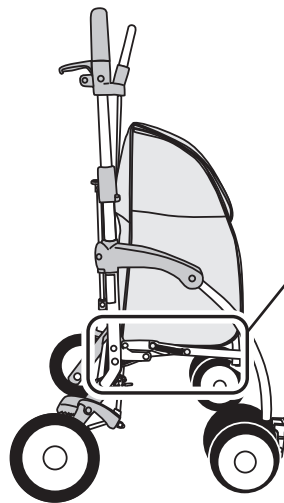
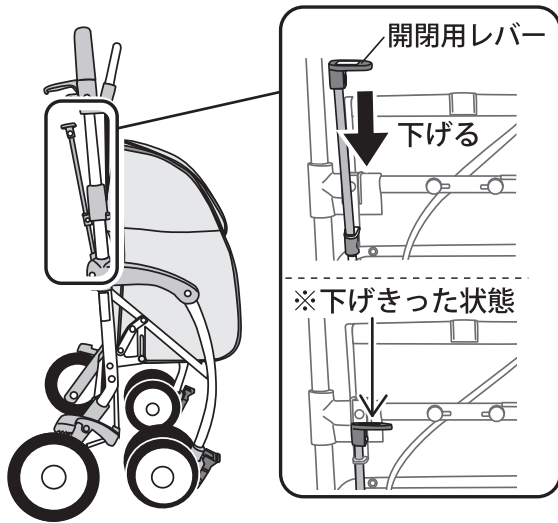


車体のひろげ方・折りたたみ方

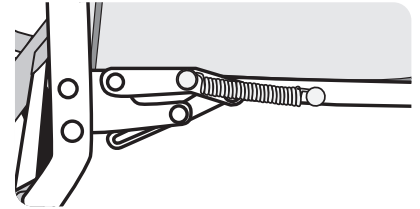
【車体のひろげ方】

ハンドルを持ち、開閉用レバーを下げきってください。

※ 開閉用レバーが下げきった状態になっているか確認してください。



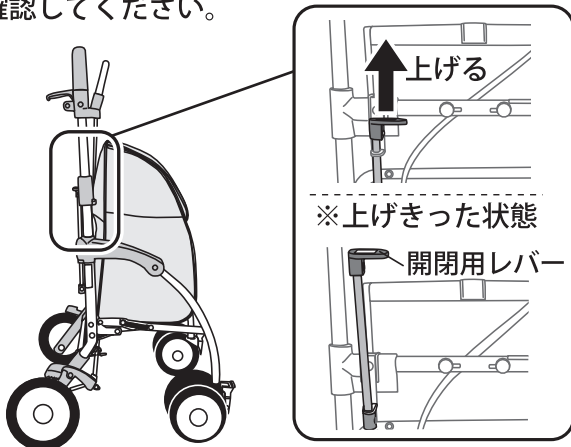
※イラストのようになっていれば、下げきった状態です。



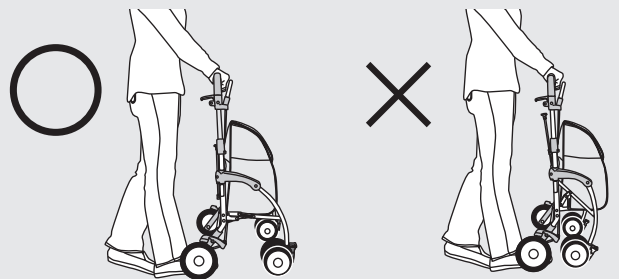
【折りたたみ方】

折りたたむときはハンドルを持ち、開閉用レバーを上引き上げてください。

※ 開閉用レバーを上げきった状態になっているか確認してください。



- 注**
- 開閉用レバーを確実に下げきっていない状態だと、使用中に車体が折りたたまれてしまい、大変危険です。
 - 荷物を入れたまま、折りたたまないでください。
 - ひろげる時や折りたたむ時には指を挟まないように、注意してください。
 - 折りたたんだ状態で使用しないでください。転倒する恐れがあり、大変危険です。



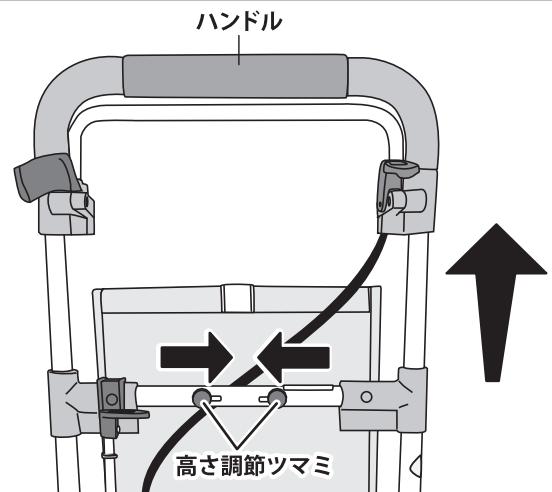
ハンドルの高さ調節

高さ調節ツマミを矢印の方向につまみ、ハンドルを持って高さ調節をしてください。

4段階の中から、お好みの高さに合わせたら、左右の高さ調節ツマミを離してください。

カチッ、と音が鳴り、ハンドルが動かないことを確認し、高さ調節ツマミが元の位置に戻っていることを確認してください。

- 注**
- 操作時に指を挟まないように注意してください。
 - 高さ調節ツマミが元の位置に戻っていないと、ハンドルが固定されず、下がってしまいます。

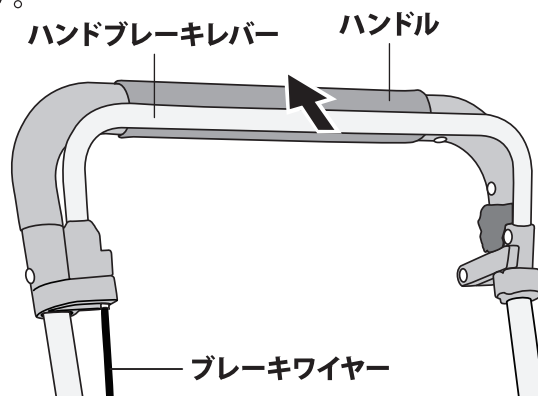


ハンドブレーキの操作方法

ハンドブレーキレバーを握れば、後輪にブレーキがかかります。

注

- ハンドルとハンドブレーキレバーの間に指を入れたまま操作しないでください。
- ブレーキは構造上、自動車のブレーキのようには利かないので、過信しないでください。
- ブレーキワイヤーが折れ曲がってしまった場合、ブレーキの利きが悪くなりますので、ブレーキワイヤーの交換を依頼してください。



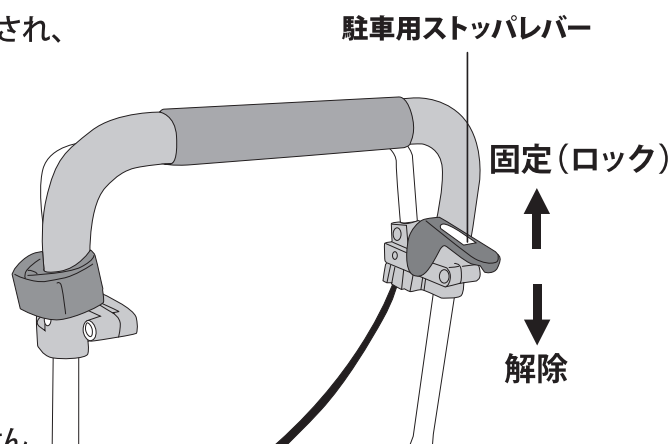
駐車用ストッパの操作方法

駐車用ストッパレバーを上げると、後輪が固定 (ロック) され、駐車用ストッパがかかります。

駐車用ストッパレバーを下げると解除されます。

注

- 駐車用ストッパのかかった状態 (後輪が固定された状態) で車体を押さないでください。
- 車体から離れる場合は、必ず駐車用ストッパをかけてください。
- 構造上、自動車のブレーキのような停止効果はありません。



ブレーキの調整方法

ブレーキの利きが悪くなった場合にはブレーキ調節ネジで調整してください。

※ ハンドルの高さを変えると、ブレーキの利きが悪くなる場合がありますので、調整してください。

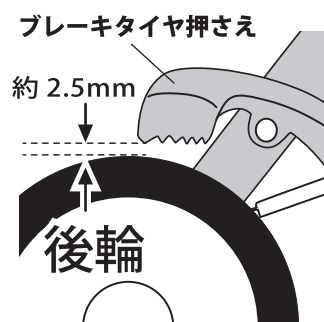
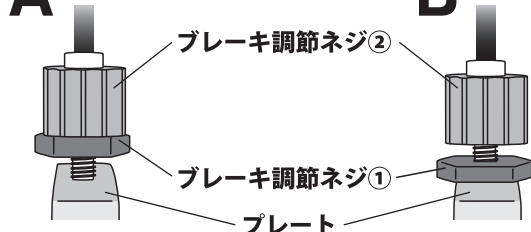
※ 駐車用ストッパをかけない状態で、後輪とブレーキタイヤ押さえの間が約 2.5 mm 空くように調整してください。

※ 調整が終わったら、ハンドブレーキレバーを握り、ブレーキが利くか確認してください。

※ ブレーキタイヤ押さえの間が約 2.5 mm 空くように調整できない場合は、ご購入販売店に連絡してください。

A

B

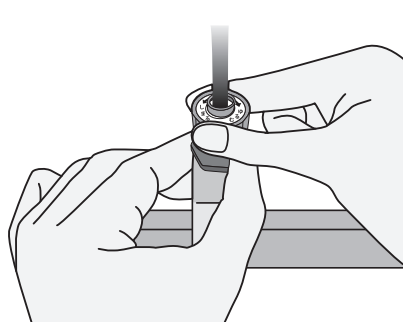


〈ブレーキをきつくする場合〉

- ①を時計回りでプレートにつくまで回し、①を固定しながら②を「しめる」方向に回してブレーキをきつくし、(B)の状態にしてください。

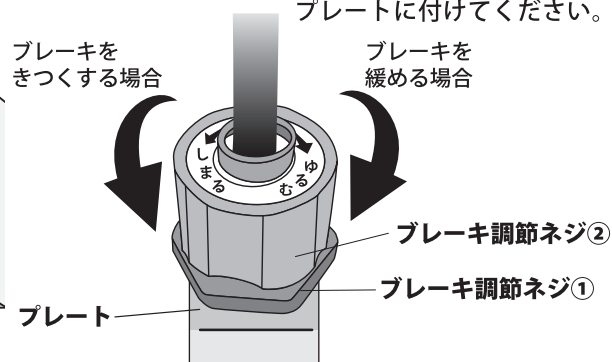
〈ブレーキを緩くする場合〉

- ①を反時計回りに回して②と付いた状態 (A) にし、①②を同時に「ゆるむ」方向に回して、調整ができれば、①だけを時計回りに回して (B) ようにプレートに付けてください。



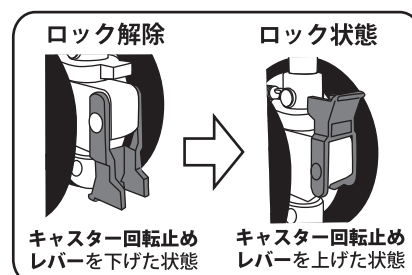
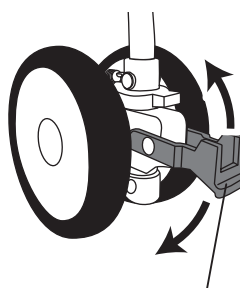
ブレーキをきつくする場合

ブレーキを緩める場合

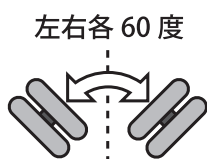


キャスターの操作方法

キャスター回転止めレバーを下げて、曲る方向に力を入れると、左右各 60 度の角度で、車輪が方向転換できます。直進状態でキャスター回転止めレバーを上げると、ロックがかかります。(方向転換ができなくなります)

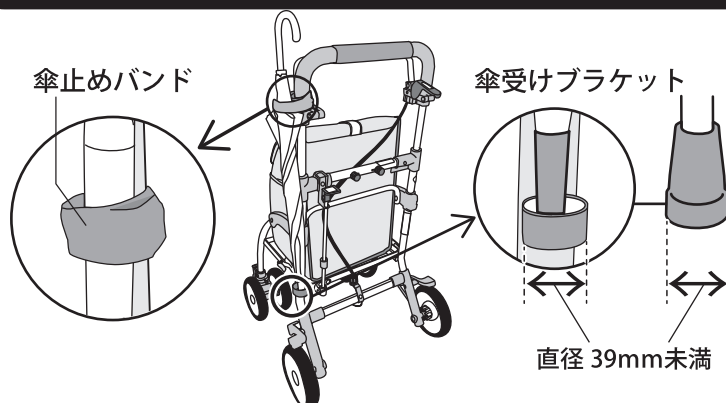


注 キャスター回転止めレバーは、左右同じ状態にしてください。



キャスター回転止めレバー

傘止めバンドの使い方



傘止めバンドを外し、傘・ステッキの先端を傘受けブラケットに入れ、傘止めバンドを傘・ステッキに巻いて固定してください。

- 注**
- 傘・ステッキは、傘止めバンドでしっかりと固定してください。
 - 先端の直径が 39mm 以上の傘・ステッキは、傘受けブラケットに入りません。

故障かなと思ったら・・・

状 況	原 因	対処方法
ハンドルの高さが固定できない	① ハンドルの高さ調節部がしっかりと固定されていない	① 取扱説明書 P4 ハンドルの高さ調節 をお読みになり、確実に高さ調節を行ってください
駐車用ストッパまたはハンドブレーキが利かない	① バネの劣化 ② 車輪の摩耗 ③ 車輪の破損 ④ 連結部のサビ ⑤ ブレーキワイヤーの折れ曲がり ⑥ ブレーキタイヤ押さえの曲がり・破損	① バネの交換 (ご購入販売店に依頼) ② 車輪の交換 (ご購入販売店に依頼) ③ 車輪の交換 (ご購入販売店に依頼) ④ 潤滑油を差す ⑤ ブレーキワイヤーの交換 (ご購入販売店に依頼) ⑥ ブレーキタイヤ押さえの交換 (ご購入販売店に依頼)
キャスターが回転しない	① キャスターの回転軸に、土や砂が混入 ② バネの劣化	① キャスターを手で回転させて、土や砂を落としてから、回転軸のすきまに潤滑油を差してください ② バネの交換 (ご購入販売店に依頼)
購入時よりも車体がグラつくようになった	① ネジの緩み ② リベットの緩み ③ 車輪の摩耗 ④ 車輪の破損	① 緩んでいるネジをしっかりと締めてください ② ご購入販売店に依頼してください ③ 車輪の交換 (ご購入販売店に依頼) ④ 車輪の交換 (ご購入販売店に依頼)

その他、車輪や車体の破損・異常が発生した場合、そのままご使用にならず、ご購入販売店に点検・修理・パーツの交換を依頼してください。

※製品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。

※取扱説明書に使用されているイラストは、説明をわかりやすくするための物ですので、現物とは多少異なることがあります。

MADE IN CHINA 25.09



株式会社 島製作所

〒547-0001 大阪市平野区加美北3丁目12-5
TEL 06-6793-0991 FAX 06-6793-0992



外袋



説明書